

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	(福) サポートバディ ぴよランド		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年2月2日		～ 2026年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員同士のコミュニケーションが多く、チームワークが良い。チームで支援にあたるため子どもが職員に執着することがない。	・出来事や子供の様子の情報共有をしている。 ・支援方法を職員間で相談しながら統一している。 ・特定の職員に偏らないよう役割分担をしている。	・より統一した支援になるように支援の質を高める。 ・チームで振り返る機会を増やす。
2	・保護者と信頼の構築が出来ており、細かいことまで保護者に伝えることができ、保護者に寄り添うことが出来る。利用児の情報共有がされている。	・受け入れ、送り出し時や連絡帳でこまめに情報共有をしている。 ・小さな変化も伝えている。 ・個別懇談等、保護者の思い等を聞く時間を意識的に設けている。	・進路や将来に関する情報提供を強化する。 ・利用児だけの支援ではなく、兄弟支援や家族支援にも力を入れていく。 ・相談しやすい雰囲気作りを継続する。
3	・集団を意識した行動がとれるようになり、社会性を身に付けることが出来る。 ・年齢層が幅広いためお手本となる児がいる。	・異年齢での小集団、集団活動を意識している。 ・年齢や発達段階に応じた役割を持たせている。 ・年上児が自然とお手本になれる環境を作っている。	・生活場面を通して自立に繋げる支援を強化する。 ・個々の特性に応じたコミュニケーションツールを充実させる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・身辺自立が確立している児には活動等の取り組みが物足りないと感じてしまう部分がある。	・個別対応児の増加及び職員不足により活動内容が特定のニーズに偏り、チーム分け等の柔軟な支援体制が整えられていない。	・現状、個別指導の時間に個々の課題に取り組んでいるが、もっと社会性向上のための活動を取り入れていきチーム分けが出来るようにする。 ・人材の確保に努める。
2	・進路関係について保護者に伝わりきれていない。	・懇談会で進路支援に関する情報共有を行うが将来をなかなか見据えることが出来ず具体的な情報提供が出来ていない。 ・最新の進路情報を収集する機会が限られている。	・個別懇談の機会を活用し、進路状況を具体的に情報提供を行うとともに学校や関係機関と連携しながら進路支援を強化していく。 ・利用児に合う事業所を提案していく。
3	・ヒヤリハットの活用が不十分である。	・リスクマネジメント表を利用し、再発防止に努めている。 ・部署内会議で振り返りと全員への情報共有している。	・防止策を明確化しているが更なる全職員への周知を徹底する体制を整備していく。 ・小さな報告をしやすい雰囲気作りをしていく。